



よさこい祭り

学校法人高知学園
高知リハビリテーション学院

学 院 報

学院報第22号

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション学院

平成27年9月20日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙2.1139-3
Tel 088-850-2311
Fax 088-850-2323
http://www.kochi-reha.ac.jp/
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション
学院への抱負⑪

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご盛栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、温かいご支援、ご協力を賜り誠に有り難うございます。保護者の皆様にも少しでも学院のことを知っていただこうと始めました学院報も今回で二十二号をむかえることになりました。

本学院の卒業生は、この春の卒業生を含めて理学療法学科一五二五名、作業療法学科五五九名、言語療法学科四一八名、合計しますと二五〇二名となりました。卒業生の医療、保健、福祉、教育など様々な分野での活躍が、高知リハビリテーション学院の社会的評価の向上に寄与してくれております。そして全国各地で頑張っている卒業生と学院との絆が高知リハビリテーション学院の誇りであり宝物でもあります。

平成二十七年度は理学療法学科四十八期生（七十六名）、作業療法学科二十三期生（四十四名）、言語療法学科十九期生（四十三名）を新たに迎え学生総数六〇二名でスタートいたしました。そして前期定期試験も終了し、一年生は八月十・十一日のよさこい祭り、土佐市の大

綱祭りへの参加を通して学生間の絆や地域との交流を深めることができたと思います。

高知リハビリテーション学院は伝統校

として四年間の学びの中で学生が成長すること喜びとし、またその教育活動の中で教職員も成長する学院でありたいと考えています。伝統を引き継ぎながら、時代の変化への対応もしてゆかなければなりません。少子化の流れの中で、高知リハビリテーション学院らしさを保つために、現在カリキュラムの見直し、教授力と学生理解力の向上への取り組みを進めております。特に、近年、発症後超早期より開始するリハビリテーションの有効性が認められ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士も超急性期病棟やICUレベルから関わりを持つ機会が多くなつて来ています。このような場面では患者さんの瞳孔反射、血圧、呼吸音、心音、腹部音、心電図などによる全身状態や病状の把握、急変の予見、対応など包括的で幅広い問題解決能力が求められます。学院では、昨年度より臨床現場が求めるセラピストの育成を目標に全国の養成校に先駆け、実際の医療現場を模した疑似環境設備を創設し、シミュレーション教育に取り組んでいるところです。

学生、教職員そして高知リハビリテーション学院の可能性を信じて、これからも教育活動の向上に努めて参りたいと考えております。どうか今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

人間総合科学大学卒業報告

人間総合科学大学指導連絡会 委員長 中野 良哉

高知リハビリテーション学院では、昭和62年度から併修制度を取り入れました。併修制度とは、本学院で学ぶと同時に大学で学び学士の資格を取得する制度です。平成12年度からは人間総合科学大学と併修提携を結びました。併修生の数は学科によって、あるいは年度によって変動しますが、現在は全学年の約1割から2割程度の学生が、この併修制度を利用し、リハビリテーション分野の近接領域である「こころ」「からだ」「文化」の3つの領域を中心に学んでいます。平成26年度の高知リハビリテーション学院卒業生のうち9名が人間総合科学大学人間科学部人間科学科を平成27年3月8日に卒業しました。大学との併修は通信制であるため、自ら主体的に学び勉学に向けて自己を律する力が必要とされます。学士の資格を取得された卒業生は、4年間にわたり学院と併修大学の学業を両立させ、最後まで学びの姿勢を崩さなかったといえます。このような姿勢を今後医療の場においても十分に発揮し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士としてご活躍されることを期待しております。

国家試験結果について

国家試験対策実務委員長 大塚 貴英

去る2月21日に言語聴覚士国家試験、3月1日に理学療法士・作業療法士国家試験が行われ、本学院からは、言語療法学科34名、理学療法学科65名、作業療法学科28名が受験しました。今年の国家試験も難易度は高く、全国の平均合格率が、言語聴覚士70.9%、理学療法士89.1%、作業療法士85.5%と、どの学科も全国的に厳しくなってきました。

そのため、今年度からは、コンピュータ解析ソフトを導入し、個々の学生に対し、綿密な状況判断の元に指導を行うよう、システムを調整し、次回国家試験に向けての国家試験対策を開始しております。そして、次回こそは「合格率100%」を目標に、各学科の教員が力を合わせ、取り組んで参りますので、今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成26年度卒業生 特別表彰者

○職業教育・キャリア教育財団 学習者表彰

- 理学療法学科 大野 瑞穂
- 作業療法学科 森下 琴美
- 言語療法学科 岡田 規秀

○全国リハビリテーション学校 協議会優秀賞

- 理学療法学科 森沢 優哉
- 作業療法学科 伊藤 聖朗
- 言語療法学科 森 貴水香

○日本理学療法士協会優秀賞

- 理学療法学科 飯尾 佳実

○日本言語聴覚士協会会長表彰

- 言語療法学科 井上 尚美

○学院長表彰

- 理学療法学科 東 恵理
- 刈谷 龍仁
- 作業療法学科 白石 佳奈子
- 言語療法学科 小笠原 雄一

国家試験勉強法

知 つ と う せ

過去問をやっていると答えの記号を覚えてしまいがちですが、過去問集は問題の通り記号を選んで解くだけでは全く意味がありません。例えば、正しいものを選ぶという五択であれば、正しくない四つの選択肢について、なぜ正しくないのかの理由を明記してみること。また、敢えて選択肢は見ずに、問題文だけ読んで答えと理由を記述式に解答してみることに。それを、解答の解説や、教科書、ノートと照らし合わせていきます。納得できないものについては友達と意見交換して深めることもよい方法です。学習効果について興味深い研究報告があります。他者に「教える」という方法を用いるとその学習の効果は八〇～九〇%、「体験する」は七〇%、「討論する」は五〇%、「レポートを書く」は二〇%、「スライドやビデオなどの視聴覚教材を用いる」は一〇～二〇%、そして「講義を聞く」は何とわずか五%の効果しかないという結果であったそうです。よく、国家試験前の学生で一人学習がみられます。一生懸命、覚えます。時間に追いまくらながら、振り返る時間もなく、勉強していると間違っていると覚えることが必ずあります。でも、その間違いに一人では気づきません。別の問題を解いている時も、「変だな」と思うかもしれませんが、そのまま過ぎて行きます。そして、間違っただけを信じてしまうのです。だから自分を知るには「他者」が必要なのです。某養成校において班活動から離脱して一人学習した卒業試験成績一番の者が不合格となった事例もあるのです。

話ほどりますが、過去問のパターンを記憶する勉強（パターン学習）を繰り返してしまつと、問題の形式や選択肢の傾向が変わつた時に対応できません。まずざつと解いてみて、自分の苦手範囲については先に述べたように選択肢を選んだ・選ばない理由や根拠を記述式で答えられるようにしてみること。解答・解説を読んで逆に問題を作つて見るのも面白いかもしれません！

(教務部 濱田)

学生生活について

言語療法学科二年

二宮 瑞稀

私が言語聴覚士を目指そうと思ったきっかけは、父の病気でした。療養中、私は父の側で話しかけることができませんでした。幸い、父の回復は目を見張るものがあり、その回復の過程をみて、ことばに関係のある仕事につきたいと思いました。高知リハビリテーション学院に通い始めて一年が過ぎました。愛媛から高知に来て、知らない土地での一人暮らしが始まり、慣れないうちは不安でいっぱいでしたが、クラスの友達、同じマンシヨ

作業療法学科二年

石本 郁美

高知リハビリテーション学院に入学して二年目になり、学院生活にも慣れ、初めての一人暮らしにもやっと余裕が出てきました。入学当初は、新しい生活や、新しい勉強内容に対しての不安でいっぱいでしたが、クラスの友達みんな素敵な人ばかりで、すぐに打ち解けることができ、不安は吹っ飛びました。勉強は、今まで習ってきた内容とは全く違い、新しい内容で戸惑うことも多々ありました

理学療法学科二年

長山 拓末

四月から二年次生としての学生生活が始まりました。二年生になったということは一学年の後輩ができたということであり、多くの人間関係が生まれるきっかけになります。新一年生にも様々なアドバイスができました。また、七人前後の小グループで構成されたセミナー学習が始まって、一層先生方との距離が近くなり、質問や相談がしやすくなりました

ンの友達のおかげで生活にすぐに慣れることができました。また、毎週火曜日には剣道のサークルにいらしています。体を動かすことができ、リフレッシュになり充実しています。他学科の学生や卒業した先輩との交流もあり、情報共有することで、自分と違った意見を聞くこともできます。高知リハビリテーション学院で学ぶ中で、人との繋がり的重要性を感じました。これからも、学校生活やサークル、さまざまな活動を通して様々な繋がりができると思います。このことを大切に、今後学生生活を過ごしていきたいと思っています。

が、みんな同じスタートだと思つと頑張りたいと思えました。そして、この学院の作業療法学科に入学して一番感じることは、先生と生徒が良い関係にあるということです。生徒は、先生に親しみをもちて関わることができ、私はそういった環境があるおかげで、毎日気持ちよく学院生活を送ることができ、頑張ろうと思えます。まだまだ、これからどんどん勉強も難しくなり、実習なども増えてくるので不安はありますが、自分の夢に向かって、楽しみながら頑張っていきたいと思っています。

た。先生方や先輩方に教わりながら学習に打ち込んでいます。学院でのイベントでは、スポーツ大会を通じて互いの関係を深め合い、共に汗を流すことの喜びを知りました。クラブ活動ではサークルの内外の仲間と会話をすることで、幅広く見聞を深めました。学生生活での交流は療法士としてだけでなく個人の成長も実感できる機会です。これからも、学んだことを少しでも活用できるように、この後の学生生活を楽しくしたいと思います。

大綱祭りに参加して

作業療法学科一年

佐々木 麻

私たちは、地元土佐市の大綱祭りに、少しでも地域の活性化につながればという気持ちで、よさこいを通じて参加し



ました。お祭りに来ている方々はとても温かく、沢山声をかけてくださり、凄く嬉しく思いました。多くの方々に賑わい、明るく元気な土佐市で、最後まで踊りきることができたのは本当に良かったです。皆も笑顔でとても楽しそう、私自身も楽しかったです。また、その他のプログラムではバス引きや綱引きもあり、出場していた方は自分の力を出し切り頑張っていました。大綱祭りを通じて様々な方と交流することができ、土佐市の元気良さに圧倒されつつ、満喫することができ、とても良い思い出となりました。参加できて良かったです。

よさこい祭り

理学療法学科一年

濱口 和也

私は今回がはじめてのよさこい祭りだったことに加え、よさこい委員だったので不安でいっぱいでした。委員で初心者ばかりでしたが、他の委員の人が優しく教えてくれ、何とか躍れるようになり本祭りが楽しみになりました。全体練習を重ねる度にみんなの顔も

明るくなっていました。本祭はすごい暑さでしたが、躍っている間はみんな笑顔になりました。一つになって躍っていました。あまり関わりがなかった人ともよさこいを通じて仲良くなれ、最高の時間を過ごすことが出来ました。サポートして下さった方々のおかげだと思います。よさこいを通して出来た仲間・絆を大切にしたいと思っています。最高の夏でした。

))) 教 員 紹 介 (((



言語療法学科
池 聡

私は高知リハビリテーション学院言語療法学科十期生です。今年の四月より本学院に就職しました。卒業して六年目とまだまだ経験も浅いですが、これまでに臨床現場で先輩や他職

種、後輩そして何より患者さんから学んできたことを少しでも伝えていきたいと思えます。現在は一年生の補導主任をさせていただいています。学生時代には考えられないような仕事量に「先生方は私たちのためにこれだけのことをしてきてくれたのか」と驚いています。

今年度に担当させていただく科目は、一年次生のものが多いため、より分かりやすく、興味を持ってもらえるような授業をしたいと思えます。また、他の教員と相持ちの科目も多いため、授業を見学させてもらい学生時代とはまた違う視点で多くのことを学んでいきたいです。



作業療法学科
金久 雅史

私は、本学院作業療法学科の十一期生です。卒業後は、高知市にある社会医療法人近森会で、八年間の臨床経験をさせていただきました。まだまだ作業療法士

として未熟ではあります。が、縁あって今年度より本学院に入職し、一年次生の副補導主任をしています。母校に戻ってきて、学院生時代を懐かしむ思いがする。とともに、新しい職場と、元気な学生たちに、日々刺激を受ける毎日です。臨床では、障害をもたれた方々

や、上司や同僚、後輩たちからたくさん大切なことを教えていただきました。その経験を少しでも活かしたい、作業療法のやりがいや楽しさを伝えることができると、自己研鑽を重ねていきたいと思っています。



理学療法学科
山崎 裕司

今年で教員十五年目になります。現在は図書館長を兼務しています。学生さんも患者さんも人間です。勉強や理学療法を行う必要があっても、努力できないことがあります。このような

人を見たとき、私たちは「やる気のない人」だなど考えがちです。しかし、それは解決策は見つかりません。努力できない背景には必ず原因があります。例えば、記憶に失敗し続けていると、どんどん勉強が嫌になっけていきます。このような時には、ヒントをふって楽に記憶できるようにしま

す。そうすると反復練習ができるようになります。流暢に言えるまで反復するとヒントを消しても思い出すことができます。勉強や理学療法に対するやる気を引き出す実践と研究が私の専門です。

保健室だより

上村 孝子

10月1日から後期がスタートします。夏の疲れの蓄積や1日の気温の変化によって体調を崩しやすくなると言われています。秋の夜長も夜更かしをせず、3食きちんと食べて、忙しい毎日を乗り切れるように体調管理を行いましょ。また適度に体を動かして、心も体もリフレッシュしてください。前期は捻挫・打撲・突き指など、授業やサークル活動中の怪我がたくさんありました。[応急手当 (RICE)] Rest 安静にする(怪我の悪化と新しい怪我をおこさせない為にも) Icing 氷で冷やす(1回15分→30分) Compression おさえる、固定する Elevation 高く上げる(心臓より高く) 捻挫・肉離れ・打撲・骨折など、スポーツで起こりやすいケガをしたときに行う応急手当がRICEです。ケガを早く治すため、悪化させないために大事な手当なのでぜひ覚えておきましょう。[気になる体調不良を治療しよう] むし歯や長引く咳など、気になる体の不調は、後期がスタートするまでに調べ、治療しておきましょう！

レクリエーション大会を終えて

レク大会委員長 理学療法学科 2年 能勢 賢人

今回、レク大会の委員長を務めさせていただきました。自分にこんな役が出来るかと心配でしたが、先輩、後輩、先生など色々な人のおかげで、怪我や大きな問題も起こらず無事に成功することが出来ました。レク大会の良いところは、体を動かすことはもちろん、1~4年生みんなで交流出来ることだと思えます。入学したばかりの1年生も、これを機会に仲が深まったのではないかと感じました。司会進行など不慣れで迷惑をかけた事もあったかもしれませんが、みんな楽しく盛り上がりのあるレク大会になって本当に良かったです。



クラブ紹介

【スケートボードサークル】

部長 理学療法学科二年 松本 慎太郎

スケートボードサークルは部員約十五人くらいです。それぞれが初心者、経験者関係なく学院内外で楽しく活動しております。スケートボードは、男の子だけが出来るスポーツだと思われがちですが女の子も楽しむことができます。現に高知リハのスケートボードサークルに二人のガールズスケーターがいます。二人は毎日のようにスケートボードを楽しんでいますよ。スケートボードは本当にやりがいのある楽しいスポーツで一度始めるとどんどんとはまっていき夢にも出てくるようになります。まして、いやみですよ。そして、スケートボードを始めると男女年齢関係なく仲良くなれるところがスケートボードの一番の良さだと思います。ぜひ皆さんもスケーターになりましょう。



【ダンス部】

理学療法学科二年 山崎 裕加

ダンス部は去年までは、部員が0人であった為、活動していませんでした。でも活動をしていないだけで「ダンス部」という枠があることを知り、もう一度ダンス部を活動させたいと思い友達や先輩に声をかけました。中学・高校時代、ダンス部だった為とても興味があり、友達と好きな音楽で好きな踊りをしたいと思いました。友達に声をかけてみると皆「やってみたい」と興味津々で話を聞いてくれたのでとても嬉しかったです。これからどんどんと活動していき仲間と絆を深めて行けたらなと思います。ダンス部はまだまだこれからなので今後が楽しみです。

地域貢献

理学療法学科教員 重島 晃史

平成二十年の体力調査で高知県の小学五年生が全国最低だった背景から、平成二十五年より県の事業である「地域を活用した学校丸ごと子ども体力向上推進事業」で、本院の学生が高岡第二小学校でボランティア活動をしております。具体的には「外遊びチューター」という役割で、放課後、小学生と一緒に校庭で遊ぶ活動をしております。体力向上という目的があるので、遊びはなるべく走ったり飛んだりとかアクティブな遊びを考える必要があり、遊ぶネタ探しに学生の四苦八苦する姿が時折見られます。しかし、小学生は学生との遊びを楽しみにしているようで、良い交流が図れている様子です。今後も地域の子どものために本院の学生が貢献できるように積極的に関わっていききたいと思います。



学院祭のご案内

学院祭実行委員長 作業療法学科3年 田中 僚

今年も高知リハビリテーション学院の一大イベントである学院祭の季節がやってきました。

本年度の学院祭は10月の11日、12日の日曜日と月曜日に開催いたします。今年は、毎年恒例のオープニングの餅投げをはじめ、豪華景品のビンゴ大会や沢山の屋台など、地域の皆さんが楽しめるようなものをたくさん用意しております。またクラス自慢やアームレスリング、コーラ早飲み、イントロドン、仮装やカラオケ大会などイベントがあります。また学生が中心になって行うバンドや学科紹介もあります。屋台ではわたがし、芋屋金次郎、焼き鳥やホットケーキ、アイス、冷凍フルーツやチーズカリカリなど豊富なバリエーションを取りそろえ、各クラスで企画をしております。また外部からの参加では学生の屋台とはまた一味違ったものを楽しんでいただけたらと思います。生徒、職員はもちろんのこと、地域の皆様にも楽しんでいただけたらと思います。学院祭実行委員一同一丸となって準備しております。ぜひ皆様お誘いのうえご来場されますことを心よりお待ちしております。

全国で活躍する卒業生シリーズ②

高知リハからはじまった言語聴覚士としての私

学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 保健科学部
リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻
言語聴覚学科五期生 岩村 健司



言語療法学科五期生として卒業した後、高知大学医学部附属病院リハビリテーション部に就職いたしました。現在は、熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻にて、言語聴覚士の養成に携わっております。今は、職場は異なっておりますが、初めて、社会人として活動することとなった高知大学附属病院での経験は、私のリハビリテーションの考え方の基本となっております。当時は、初めて仕事をするという意気込みと上手くやっているといるだろうかという不安があり、とても緊張していたことを覚えております。病院では県内唯一の大学病院であったこともあり、新生児から超高齢者まで幅広く、かつ、様々な障害や疾患を有した患者さんに対して、言語聴覚療法や嚥下機能療法を実施しておりました。また、学術活動も活発に行われていたため、研究や根拠ある医療を行うための考え方など、病院で、人を支援することの難しさや研究することの楽しさといった、たくさんのお話を学ぶことができたことは、とても貴重な経験であったと思います。その後も様々な経験を積んでいく中で、徐々にアジアにおける言語聴覚士の現状につ

いて関心を持ち始めたころ、熊本保健科学大学で養成に従事してみないかとのお話がありました。熊本保健科学大学では、以前からタイ国のコンケン大学と交換留学を行っており、私自身、この機会にアジアを知ろうと思いい、長年お世話になった職場からの異動を決めました。実際にタイを訪問できた時、リハビリテーションを学ぶ大学生や現地で活動する言語聴覚士と交流し、その意欲や熱意の高さを知ったことは、私にとって、とてもよい刺激となっております。特に印象深かったのは、学校では、教科書が英語しかないため、日本では何気なく勉強している内容も、タイでは英語を通じて学習する必要があることを知ったことです。タイは日本と似ていて、英語は新たに勉強しなくてはならない言葉ですから、一冊読むのも大変です。自分も言語聴覚士として自己研鑽を続けようと思えました。

現在も、多くのことを学んでいる最中ではありますが、このように本当にたくさんのお話を学べたことも、高知リハビリテーション学院で、全てのスタートがあったからだと思います。

後援会よりワゴン車（8人乗）を寄贈していただきました。

学外での学習やクラブ、ボランティアなど色々な活動に大変便利になりました。



(平成27年6月18日学院にて 左から学院長、羽方後援会会長、江淵名誉顧問)

大型スクールバスを導入しました。(学院～伊野駅間)

これまでの中型バス2台に加え、平成27年10月より運行を始める予定です。



食堂東側の緑地に故酒井寿美先生のご遺族よりモニュメントを寄贈していただきました。



碑文：学生たちと過ごした日々が一番幸せでした
酒井 寿美

